

キャラクター名	プレイヤー名
竜田 源之助	

メインクラス	ウォーリア	Lv.1:		レベル	4
サポートクラス	グラディエーター	Lv.1:	グラディエーター	性別	♂
称号クラス				年齢	38
種族	ドラゴネット			境遇	秘密
出自 (効果)	闘士			目標	扶養

	筋力	器用	敏捷	知力	感知	精神	幸運
基本値	16	13	12	8	6	10	9
ボーナス	5	4	4	2	2	3	3
クラス修正	1	2	1	0	0	1	1
他修正							
能力値	6	6	5	2	2	4	4

HP	63
MP	42
フェイト	5

装備品		射程	命中	攻撃	回避	物防	魔防	行動	移動
右手	トマホーク	至近	-2	11	0	0	0	-1	0
左手	ファインシールド		0	0	0	6	0	-1	0
頭部									
胸部									
補助	ファインポイントアーマー				-1	5			
装身具	バトルアクセ					2			
能力値			6	0	5	0	4	7	11
スキル	マシンアーマー、サブライブ、シールドストライク		3	6		15	6		
その他	バトルアクセ					2			
総計(右)			7	17					
総計(左)			9	6	4	30	10	5	11
総計(両)									m
ダイス数			3 d	2 d	2 d				

	能力値	スキル	その他	合計	ダイス数
トラップ探知	2			2	+ 2 d
トラップ解除	6			6	+ 2 d
危険感知	2			2	+ 2 d
エネミー識別	2			2	+ 2 d
アイテム鑑定	2			2	+ 2 d
魔術判定					+ d
呪歌判定					+ d
錬金術判定					+ d

所持品	
冒険者セット	
HPP	バックパック、ヘルムホーチ
HPP	
HPP	
MPP	
MPP	
MPP	
毒消し	

現在重量:	10	所持金:	2065	預金・借金:	
最大重量:	23				

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ドラゴンフォーム	★	-	パッシブ	-	自身	-		
効果: 【物理防御力】と【魔法防御力】に+2								
バッシュ	3	4	メジャー	武器	単体	命中		
効果: 武器攻撃を行う。ダメージロールに+[SLd]								
アームズマスタリー:斧	★	-	パッシブ	-	自身	-		選択武器
効果: 選択武器の命中+1D								
サブライブ	3	-	パッシブ	-	自身	-		5頭胴無
効果: 物防+SL*2+5 魔防+SL								
シールドストライク	3	-	パッシブ	-	自身	-		3盾装備
効果: 命中+SL ダメ+SL*2								
ボルテクスアタック	★	-	効果	-	自身	自動		シナ1
効果: 武器攻撃と同時使用対象単体ダメ+CL*10								
カバーリング	1	2	ダメ口直前	至近	単体	自動		防御1
効果: 行動済みでもカバーできる								
克蘭ベルスタイル	★	-	効果	-	自身	自動		
効果: ラウンド終了時、最大HP/2以下のとき最大HP/2にする								
ディフェンダー	1	3	マイナー	-	自身	自動		
効果: 物理防御+SL*3 シーン終了まで								
アスレチック	1	-	パッシブ	-	自身	-		1
効果: 跳躍の【筋力】判定+1D								
ビジランテ	1	-	パッシブ	-	自身	-		1
効果: 隠密発見【感知】判定+1D								
マシンアーマー	1	-	パッシブ	-	自身	-		1
効果: 物防+2 魔防+1								
マシンリム	1	-	パッシブ	-	自身	-		1
効果: 筋力、器用、俊敏基本値+1								
効果:								
効果:								
効果:								

「やめて！ 倒れたら財布にするきなんでしょう！ クロコダイルみたいに…クロコダイルみたいに！」

竜田源之助は闘技場の闘士だった。親父も、その親父もまた闘士だった。自分もまた闘士となり、このままここで一生を終えるのだらうと思っていたのだった。その矢先…

「膝に矢を受けてしまったな…」

このままでは闘士として戦えない。家族を養っていけない。そう思っていたその時、不思議なことが起こった！

気が付けば改造されていたのだった。

一体だれがこんなことを、何の目的に。

時を同じくして親友のクロコダイル君が闘技場から姿を消した。

闘士なんて仕事、いついなくなってもおかしくないものだ。それでもなんの予兆もなくなくなるなんておかしい。

自分の体のこともある。自分の知らないところで何かが起こっているのだ。

そんな中かすかな記憶が頭をよぎる。

思い…出した…！

膝に矢を受けて気を失っていた時、あいつらが俺の体に何かをしたのだ。

クロコダイル君も多分おなじだろう。

そう、俺は知ってしまった。闘技場の秘密を…！

こうとなってはこんな人のことを何とも思っていない場所にいられるか、俺は冒険者になって一山あてるぜ！

そうして竜田源之助の冒険が始まったのだった。